

平成 29 年度 大田区区民協働推進会議（第 2 回）

日時：平成 29 年 6 月 15 日（木）

場所：本庁舎 2 階 204 会議室

【議題】

- 1 委員の活動紹介
- 2 地域力応援基金助成事業【スタートアップ助成】（新規）の審査について
- 3 地域力応援基金助成事業【ジャンプアップ助成】（新規）の取扱いについて
- 4 地域力応援基金助成事業【ステップアップ助成】（新規）の審査員の選出について
- 5 平成 29 年度調査・研究テーマについて
- 6 その他

【出席者】

委員：中島・牛山・川口・茂野・平澤・寺田・櫻井・柳谷・長沼

事務局：区民協働担当課長・地域力連携協働支援員・区民協働担当 2 名

【会議録】

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 定刻になりましたので、平成 29 年度 第 1 回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。 本日は、杉崎委員、志村委員からご欠席の連絡をいただいております。 ただいま、委員 11 名のうち 8 名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第 6 条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。 開会にあたり、中島会長にご挨拶をお願いいたします。 |
| 会長 | 《会長あいさつ》 |
| 事務局 | ありがとうございました。ここからは中島会長に進行をお願いいたします。 |
| 会長 | それでは会議を始めさせていただきます。お手元の会議次第に沿って進めたいと思います。 最初に、委員の活動紹介について、事務局より説明をお願いします。 |
| 事務局 | 今年度、委員の改選がありましたので、委員の皆様にご自身の活動を紹介していただくため、活動紹介シートをご提出いただきました。お忙しい中作成していただき、ありがとうございました。 取りまとめた資料をお手元にお配りしております。 区民協働推進会議は、各団体からの推薦された代表者や、熱意ある区民の皆様が委員となっただき、協働についてそれぞれの立場で主体的に議論する場であるとともに、区の目指す協働の形が具現化された会議体でございます。それぞれの委員の皆様の活動を知っていただくことも、協働を推進するこの会議では重要なことと考え、このようにお願いした次第でございます。 それでは順に、ご紹介をよろしくをお願いいたします。 |
| 委員 | 《委員自己紹介》 |
| 会長 | 皆様、ありがとうございました。 つづきまして、地域力応援基金助成事業【スタートアップ助成】（新規）の審査について、事務局より説明をお願いいたします。 |

| | |
|------|---|
| 事務局 | 《審査資料配布》 |
| 事務局 | <p>ただいまお配りした審査資料につきましては、秘密事項の取扱いとさせていただきます。後刻、職員が資料を回収いたします。</p> <p>スタートアップ助成は、4月10日から21日まで募集を行ったところ、22団体より申請をいただきました。事業内容、申請額及び審査結果につきましては、審査資料のとおりでございます。</p> |
| 会長 | それでは、審査結果に基づき、区長へ推薦する団体を決定いたします。 |
| 委員 | 《委員全員で審議・承認》 |
| 事務局 | 《配布資料回収》 |
| 会長 | つきまして、地域力応援基金助成事業【ジャンプアップ助成】（新規）の取扱いについて、事務局より説明をお願いします。 |
| 課長 | <p>最初に、ジャンプアップ助成制度についてご説明いたします。</p> <p>ジャンプアップ助成は、区が課題と考えるテーマを提示し、テーマに即した事業を提案し、行政と協働して課題解決をする団体に対して助成する制度でございます。</p> <p>この度、4月から約1か月間全庁的に提示テーマの募集を行いました。残念ながらいずれの部局からもテーマの提案がございませんでした。</p> <p>これまでは、テーマの調整がつかず、事業募集に至らなかった年度もございしますが、テーマの応募がなかった年度はありませんでした。</p> <p>昨今、行政課題の解決に向けてのスピード感が求められるようになってきております。大田区においては、大田区10か年基本計画「おおた未来プラン10年」を定め、それに基づき施策を行っており、年度ごとに現状の分析、課題の把握を行い、解決策の検討などに全庁をあげて取り組んでいるところでございます。</p> <p>ジャンプアップ助成が始まってから8年経過しました。この間行政も課題の抽出、スピード感を持った解決に向け進捗していると考えております。</p> <p>今回の結果について、事務局としましては、従前に比べ行政が取り組む課題が明確化されていること、ジャンプアップ助成の実施がテーマ募集の翌年度であることから、事業に取り組むまでに時間がかかることが、原因の一つになっていると分析しております。</p> <p>ジャンプアップ助成は、地域団体との協働で事業を実施する点で大変有意義であると考えます。一方、運用の仕方、あり方については検討が必要な時期に来ていると考えております。</p> <p>後ほどご説明しますが、地域力応援基金助成事業のあり方も、今年度の調査・研究テーマとしてご議論いただきたいと考えております。</p> <p>このような現状を踏まえまして、ジャンプアップ助成につきましては今年度再募集をせずに事業募集を中止とし、見直しのうえ翌年度以降事業を実施したいと考えております。</p> <p>皆様のご意見を頂戴し、最終的な判断をしたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。</p> |
| 会長 | ありがとうございました。皆様からご意見はありますか。 |
| 柳谷委員 | テーマが部局からあがってこないのであれば、テーマをフリーにして募集をかけることや、過去に応募はあったが募集に至らなかった事案の再検討をはいかがでしょうか。 |
| 事務局 | テーマをフリーにするというご提案ですが、ステップアップ助成が区民の方の目線で事業を提案していただけるものだと考えております。ステップアップ助成はニーズがない |

| | |
|-----|---|
| | <p>ということはございませんので、ステップアップ助成の充実を図っていければと考えております。</p> <p>これまでは、子どもの学習支援のようにジャンプアップ助成で取り組んだ課題が区の委託事業につながるケースもありましたが、おおた未来プラン 10 年の後期から区長による重要課題のヒアリングが開始されたことに伴い、現状の認識、課題の把握をスピーディーに行うことが求められていることから、ジャンプアップ助成の見直しが必要と考えております。</p> |
| 会長 | 事務局からの状況の説明を受け、これから助成事業全体の見直しを検討することもありますので、今年度については事業の募集をしないということではいかがでしょうか。 |
| 委員 | 《委員全員で承認》 |
| 会長 | つづきまして、地域力応援基金助成事業【ステップアップ助成】（新規）の審査員の選出について、事務局から説明をお願いします。 |
| 事務局 | <p>ステップアップ助成につきまして、資料を 2 種類お配りしております。一つはピンク色の募集案内、もう一つは審査員及び審査スケジュール案でございます。</p> <p>今年度は 6 月 12 日より募集を開始し、7 月 14 日〆切としております。この場をお借りしまして、募集を開始したことをご報告させていただきます。</p> <p>審査員につきましては、前回の推進会議で考え方を事務局からお示し、承認をいただきました。ステップアップ助成でも、スタートアップ助成と同様に、学識経験者、公募委員、区の管理職の 5 名で審査を進めたいと考えております。</p> <p>ステップアップ助成は第二次審査を公開プレゼンテーションとしております。審査員のご決定をいただいた後、審査員の中で審査日程調整を図りたいと考えております。</p> |
| 会長 | 審査員については、事務局案のとおりでいかがでしょうか。 |
| 委員 | 《委員全員で承認》 |
| 会長 | 選出された審査員の皆様、よろしく申し上げます。 |
| 会長 | つづきまして、平成 29 年度調査・研究テーマについて事務局から説明をお願いします。 |
| 事務局 | <p>それでは、事務局案を説明いたします。</p> <p>区民協働推進会議の調査・研究の取り組みにつきましては、年度ごとに一つのテーマに取り組み、次年度に前年度のテーマからの発展であったり、新たなテーマに取り組むなどの形で進めてまいりました。</p> <p>今年度につきましては、2 つのテーマを同時進行で取り組むことを事務局案とさせていただきました。</p> <p>理由としましては、先ほども申し上げました通り、「おおた未来プラン 10 年」の計画事業である地域力応援基金助成事業について、計画期間終了に伴い、検証することとなっております。その後の方向性を検討するにあたり、制度を継続して実施するのであれば期間終了前に検証に取り掛かり、方向性を区長へ提言する必要があると考えております。</p> <p>このようなスケジュール感で進めるには、来年度だけでは議論に十分な時間が確保できない状況がありますので、今年度から議論に取り掛かる必要があると考えました。</p> <p>協働の推進に関しましては、助成事業だけではなく、その他にも調査・研究を進め、活動団体等の支援になり得る情報収集も大変重要でございます。</p> <p>そのようなことから、今期、とりわけ今年度につきましては、2 つのテーマを同時進行で進めていただきたいというのが事務局案でございます。</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>お忙しい中調整していただき会議にご出席いただいておりますが、会議を開催できる日数も自ずと限られております。作業にかかる時間等はスケジュールを十分に調整しましてご負担にならないよう進めてまいりたいと考えております。</p> <p>それでは、各テーマについて説明を申し上げます。</p> <p>まず、テーマの一つめ「大田区立小・中学校「おやじの会」実態調査」について、地域力連携協働支援員 庄嶋より説明いたします。</p> |
| 支援員 | <p>《資料に沿って説明》</p> <p>ねらい： 地域における子育て世代、現役世代のコミュニティとして小・中学校の男性保護者による「おやじの会」があるが、区役所に担当がないこともあり、その実態は十分に把握されていない。おやじの会がある区立小・中学校数や各会の状況を把握するとともに、地域で果たしている役割を明らかにし、今後の可能性を展望する調査とする。</p> <p>進め方： 1 アンケート調査（7～12月） 2 ヒアリング調査（12～2月） 3 調査のまとめ（3月）</p> |
| 事務局 | <p>引き続き、テーマの二つめ「地域力応援基金助成事業の見直しについて」を、ご説明いたします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p> <p>ねらい： 地域力応援基金助成事業は、「おおた未来プラン10年」に基づき平成31年度に検証を行うこととなっている。平成26年度の調査・研究テーマ「地域力応援基金助成事業の検証」を踏まえて、これまでの助成事業の成果や課題を整理するなど、本助成事業について調査・研究を行い、今後事業としての方向性を推進会議の視点で検討する。</p> <p>進め方： 1 助成事業全体の成果や課題の整理（6～11月） 2 スタートアップ助成の検証・検討（9～平成30年2月） 3 ステップアップ助成の検証・検討（平成30年2～6月） 4 ジャンプアップ助成の検証・検討（平成30年2～6月） 5 まとめ（平成30年9月）</p> |
| 会長 | <p>今の説明でご意見、ご質問がございましたらお願いします。</p> |
| 長沼委員 | <p>おやじの会は、中学校に入ると保護者が学校に来ることを好まない子どもが増えることから、活動が活発にならない傾向があるのではないのでしょうか。</p> |
| 寺田委員 | <p>「おやじの会」の会員の方は、なぜPTAではなく「おやじの会」で活動しているのでしょうか。時間的な制約のためでしょうか、それともPTA活動の義務感のためでしょうか。共働きが増え、PTA活動がなかなかできない方も多いと聞きます。前者であれば、女性も同様ではないのでしょうか。潜在的なニーズとして「おふくろの会」というものがあったとしても不思議ではないと思います。</p> |
| 支援員 | <p>おやじの会が活発になっている理由としては、いずれも少しずつ当てはまると考えています。おやじの会は、PTAに義務的な面があるのに対して、自由なボランティアとして活動することで存在していると考えられます。</p> <p>女性の場合はPTAの役員や委員をしている方も多いですが、おやじの会のような自由な性質を持つ女性のコミュニティとしては、これまではバレーボールとコーラスが中心でした。最近では、大田区では読み聞かせや外国語のボランティアが増えているようです。</p> |
| 柳谷委員 | <p>自身の子育ての経験から、おやじの会が企画したイベントはアクティブなものが多く、</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>楽しかった印象があります。 区内には同窓会が活発な小・中学校もありますので、学校での特色も合わせて調査すると実態も見えやすいのではと思います。</p> |
| 支援員 | <p>調査の中で、おやじの会以外にも PTA を補完するような組織があるかについても見えてくるかもしれません。</p> |
| 寺田委員 | <p>担い手不足に悩む自治会・町会の中には、おやじの会の存在を知らないところもあるのではないのでしょうか。</p> |
| 支援員 | <p>自治会・町会の人材不足を補う意味でも、参考になればいいと考えています。</p> |
| 会長 | <p>回覧板を使ってボランティアを募り、参加できるものに登録してもらうことを、町会独自で立ち上げています。中学生、高校生のボランティア参加者もあり、先日は 20 名も参加があり大いに助かりました。声をかけると手伝ってくれる人がいます。町会では企業などとの関係も大事にしています。</p> |
| 川口委員 | <p>小学校を卒業した保護者は手伝ってくれることが多いと感じます。子どもが中学校に入り、力が余っている人が青少年活動に参加するケースもあり、青少年委員になった例もあります。</p> |
| 会長 | <p>調査、研究テーマについては事務局案で決定し、調査・研究を進めたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>《委員全員で承認》</p> |
| 会長 | <p>予定しておりました議題は以上でございます。 その他、何かございましたらご発言願います。 ないようであれば、事務局から報告等があればお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>お手元にお配りしております「平成 27・28 年度 大田区区民協働推進会議 活動報告」が製本できました。中島会長からは、先日区長に活動報告をしていただきました。今後は議会、行政内部、区内施設等、地域で広く公表してまいります。 また、会長のご提案で、各地域力地区委員会でお配りすることとなりました。 まだ予備がありますので、興味のある方がいらっしゃればお渡ししていただければと思います。</p> |
| 支援員 | <p>本報告の補足となりますが、この報告で予備調査を行った「(仮称) 地域活動ハンドブック」については、7 月に発行できる見込みです。</p> |
| 事務局 | <p>また、「マナビィ★おおた」もお配りしております。本紙は、生涯学習担当が作成しており、今号では久が原地区で実施された、協働推進講師派遣事業を活用して行われた事業を掲載しております。各地区にも広く紹介することで、取組みが広がってほしいと考えております。</p> |
| 寺田委員 | <p>ハンドブックに、青年会議所や法人会など、経済系の団体を入れるのはどうでしょうか。企業との連携がより広がると思います。</p> |
| 支援員 | <p>今回は、地域力推進会議の構成団体などを参考に作成しております。産業系では、商店街、工業団体については紹介していますが、それ以外は今後、情報量を増やしていきたいと考えております。</p> |

| | |
|------|--|
| 櫻井委員 | 地域の工場で、土地が余っているから地域の方に活用していただきたいと考えている方の声も多く聞きます。法人会でも、学校への貢献を考えているところもあります。 |
| 平澤委員 | 各方面で委員会などが多く存在しており、整理する必要があるかもしれません。 |
| 柳谷委員 | ハンドブックに掲載されていない組織や活動の中にも、地域のために地域で活動したいという方がたくさんいると思います。 |
| 会長 | 皆様、ご意見ありがとうございました。 それでは、次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。 《平成 29 年度 第 3 回は、9 月 14 日（木）に開催》 |
| 会長 | 会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。 |